



# ほんなこてゆたたり



文責 校長 平井 敏博

令和4年度教育目標 目指すは、“とことん学び続け、とことん学び合う人”

## 【お詫びと訂正】

第1号で紹介した“ゆたたり”の話の中で、漢字表記を“富足”としておりましたが、正しくは、“豊足”です。たいへん、申し訳ございませんでした。

(誤) 富足 ⇒ (正) 豊足

## “とことん学び続け、とことん学び合う人”

～「おい、頭悪かもん。」「わたし、下手ですから。」と言わせたくない。～  
教育の仕事をさせていただいて、子どもたちから「おい、頭悪かもん。」「わたし、下手ですから。」というような発言があると、ひどく反省させられます。責任を感じます。子どもたちに、そのようなことを、言わせてしまっているわけです。

誰でも、当然のごとく、苦手なことや、不得手なこと、嫌いなこと等あるわけです。もちろん、わたしも、そんなことだらけです。

これからの時代を、豊かに生き抜くためには、問題・課題にぶつかった時、自分の苦手や不得手なことに出くわした時、どのように考え、どのように行動するかが大事だと考えます。その事象に後ろ向きになるか、自分の成長をめざして前向きに取り組むかで、大きく異なってしまいます。

相対評価(例:他者と比べて何番か。)、絶対評価(例:テストで80点以上か、以下か。)ということは、生涯にわたって、付いてまわるでしょう。それを否定するつもりは、全くありません。必要なこともあります。しかし、それ以上に大事なものは、個人内評価です。今の自分と、その後の自分が、どう変わったか。成長したか。伸びたか。そこを、大事にした教育を、多良小学校では、全教育活動で行っていかうと考えています。

“学び”を、授業時間、勉強のことと限定しません。生活を含めた“全教育活動”で、“学び”があります。登校班での登校、掃除時間、給食時間、友達とのトラブル解決、もちろんすべての教科・領域の授業も、もちろん入ります。

自分を、限りなく成長させることに、楽しさ、醍醐味を実感している人になって、義務教育を終えてほしいと考えます。

裏面につづく。

## 多良小校区、探訪

年度始めに、子どもたちの登校経路を、自分の目で確認したいと思い、5日間、あちこちの登校班といっしょに、歩いて登校しています。スタート地点は、以下のようになりました。

1日目(4/7)川原地区、2日目(4/8):伊福地区、3日目(4/11):陣内地区、4日目(4/12):片峰地区、5日目(4/13):川内地区、です。

3つの発見がありました。

一つ目は、登校班の様子です。登校班の状況については、3つのタイプに分かれます。“一列ドンピシャリ班（見事な登校班の様子）”、“ばらばら班（指導が必要）”“中間タイプ班”です。今後の学校全体での指導に生かします。

二つ目は、危険箇所・注意箇所の確認です。信号なしの横断歩道の横断、横断歩道がないところの横断、歩道がないところの通行、車の出入りのあるところの通行、水路・溝近くの通行、等、いくつも確認することができました。近所の方々のサポートも、至る所でありました。目をかけ、声をかけ、日常の見守りをさせていただいておりました。本当に有難いです。

三つ目は、多良の数々の“素敵なところ”“素晴らしいところ”“価値あるところ”等を、発見することができました。例えば、水路を流れる水のきれいさ。子どもたちにとっては、“当たり前”で、他の人から言われないと、気付きもしないのかもしれませんが、しかし、水路を、当たり前のように流れているきれいな水に感動しました。ビニールハウスで栽培されている野菜や花、果物についても、施設規模やその様子に感心しました。田畑の様子も、実に大事に管理されていることがわかりました。専門、専門のお仕事をされているお店・仕事場にも、関心が高まりました。産業学習の、生きた教材の宝庫でした。神社、仏閣等、地域の歴史を感じさせるところも、多々ありました。

人に支えられ、環境に恵まれ、素直に育つ子どもたちを目の前にして、「ここ（多良小）で、子どもたちの持ち味を存分に発揮させねば、どこでやれるの!？」という責任の大きさも感じたところです。

## ようこそ、多良小学校へ ～31名の新入生～

4月11日（月）に、多良小学校の入学式を、挙行いたしました。新型コロナの影響で、来賓も3名限定の式となるなど、いつもと違っていています。しかし、子どもたちの生き生きとした眼差しは、いつの時代も、全く変わらないなと思いました。もちろん、新たな小学校生活への不安もあることでしょう。全職員で、しっかりとサポートしていきます。

